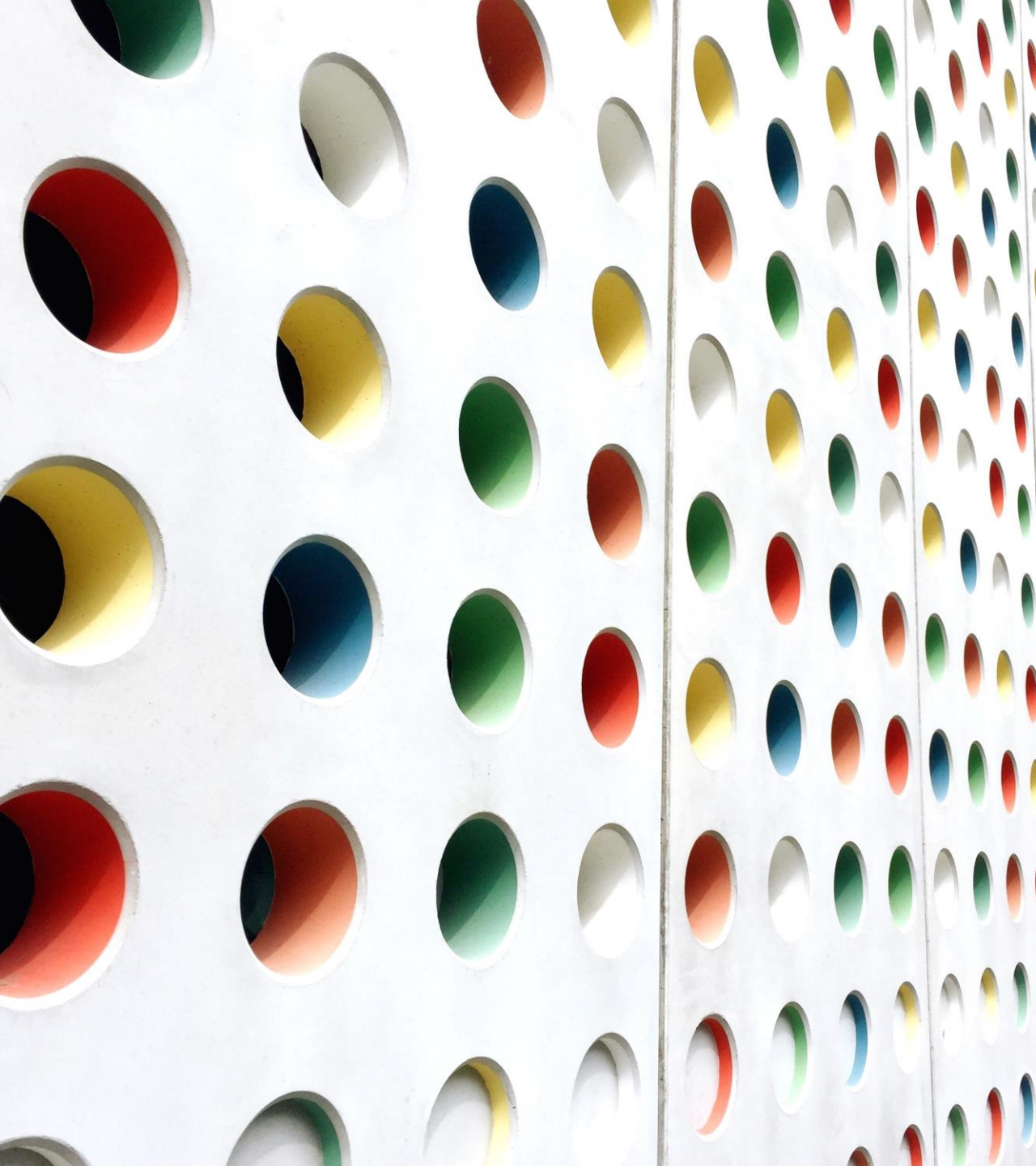




タブレット 活用事例集

松山市立幼稚園

令和 7 年 3 月

松山市立幼稚園 教育用タブレットの導入について

【松山市立幼稚園における教育用タブレットの導入】

導入時期	令和6年度 6月下旬
導入台数	各園 年長児のグループ5名に1台程度

【導入にあたって】

目 的	幼児を取り巻くデジタル環境の変化に対応し、就学後の生活を見据えて使用の体験ができるよう、園生活の中にタブレットを取り入れる。
期待する効果	○幼児の生活を豊かにする ・遊びを通して学びの芽を育む ・協働的な活動のきっかけにする ・表現を助けるツールとしての活用 ・幼児一人一人に合わせた関わり ○保護者との連携や教師間での共有 ○ICTリテラシーの育成

松山市立幼稚園 教育用タブレットの導入について

【具体的な活用例】

- 協働的な学びにつながる情報共有
- 直接体験を補う情報の獲得や交流の機会確保
- 園にはない情報を得ることによる遊びの深まり
- ICT活用による業務の負担軽減

など

今年度の利用頻度	毎日	・・・3園
	週2～3回程度	・・・1園

活用事例 令和6年度



インターネットでの調べもの

- ・事例1 どこからくるの
- ・事例2 この虫はどんなところで暮らすのが好き?



YouTube視聴

- ・事例3 干し柿を作ってみよう
- ・事例4 ダンスの先生



撮影・視聴

- ・事例5 五明太鼓ってすごいね
- ・事例6 パリオリンピックを見てみよう
- ・事例7 本物のおみこしを撮影して帰ろう

活用事例 令和6年度



Bluetooth活用

- 事例8 プレイリストをスピーカーにつなぐ



クロームキャスト活用

- 事例9 第1回みこしづくり会議
- 事例10 小学校のお兄さん、お姉さんと語ろう



その他の活用

- 事例11 教師の動画研修活用
- 事例12 給食の様子を伝える

インターネットでの調べもの 事例 1 どこからくるの

★：活用による効果

11月中旬に転入予定の幼児について、教師が知らせる。

A児「〇〇ちゃんって、どこから来るん」

教師「兵庫県ってところなんよ」

A児「遠いところ？」

教師「そうねえ・・・地図で見てみよう」

タブレットで検索した地図を50インチテレビに映す。

教師「ここは・・・みんなが住んでる？」

幼児たち「愛媛県！」

教師「なお、A幼稚園とエミ〇〇はここです」

B児「遠い！海の向こう」



★地図を通して遠い・近いについての幼児なりのイメージを抱き、知らない場所を想起しやすい。タイミングよく皆に見える形で示すことができ、多くの友達と共有できる。

インターネットでの調べもの

事例 2 この虫はどんなところで暮らすのが好き？

虫取りが大好きなA児は、園庭で昆虫を見付けてくる。

A児「この虫は・・・」

教師「写真撮ってみようか」

A児「せ・あ・か・ひ・ら・た・ご・み・む・し」

教師「害虫・・・です」

タブレットで見つけた情報を読み上げると、B児も寄ってきて一緒に見始める。

B児「木の根っこや腐ったはっぱを食べるって！」

一般的には害虫とされ、飼育方法が載っていない昆虫の情報についても知ることができた。調べることで興味がわき、害虫と知りつつも大切に飼育していた。



★文字が読み書きできなくても、教師の少しの援助があると写真や動画を見て知りたい気持ちを満たしやすい。
★自分で調べたからこそその愛着が確認できた。グループで使うことで、一人で知ったことよりも共感の喜びがふくらんだ。

YouTube視聴

事例 3 干し柿を作ってみよう

預かり担当保育士から渋柿をたくさん分けてもらう。

教師A「これね、渋柿なんだけどね、干したら甘くなるんよ。

干し柿作ってみたい？」

A児「食べたことない！」

B児「食べたことある！でもどうやって作るん」

教師B「先生も作ったことないからみんなでお勉強しよう」

動画を視聴しながら作り方を確認する。

教師B「さあ、みんなで作ってみよう。」



★知らないことでも、イメージをもちやすく、意欲も一層増す。たくさんの中から自分たちにできるやり方を選んだり、教師も経験のないことについて補ったりすることができる。

YouTube視聴

事例3 干し柿を作ってみよう（つづき）

他の幼児にも見えやすい場所へ移動し、渋柿の皮むきにチャレンジする。

3歳児担任「うわあ、何してるん」

C児「皮むきしよるんよ。この後、秘密のお水をシュツシュ

するんよ。へたはね、干す時、紐を結ぶけん、取ったら
いかなのよ！」



★動画の視聴経験が5歳児の活動意欲につながり、他の学年にも広がるなど園生活がより豊かになっていく。

YouTube視聴

事例 4 ダンスの先生

教師「運動会の踊り、どうする？」

A児「みんなで考えようや」

B児「踊り、分らん」

教師がタブレットをもってきて、みんなでダンス動画を視聴する。

C児「これ、いいやん。みんなでしてみようや」

タブレットを見ながら同じように踊ってみる。

D児「これ、難しい」

教師「みんなで合わせて踊りたいんよね。全部まねをしなくてもいいと思うよ。

自分たちで考えて作ったら楽しそう」

E児「じゃあ、ここはこんな感じにする？」

他の動画も参考にし、気に入ったものを取り入れながら、「自分たちの運動会の踊り」を作っていく。



★気軽に検索し、モデルとなるダンスや歌の動画を見付けることで、幼児のイメージが広がり、友達と共有しやすい。

★手掛かりのないところからの活動の出発よりも、基になる映像があることでアレンジや一緒に考えていく楽しさを味わいやすい。

攝影・視聽

事例 5 五明太鼓ってすごいね

隣接する小学校体育館から聞こえる「五明太鼓」に、幼児たちが「何の音」「また聞こえる」と興味を示し、見に行くことにした。

その日、楽しみにしていた幼児が欠席したため、教師がその様子を撮影し、翌日、全員で見る。

A児「すごい！ Aも見に行きたかった」

幼児たちは、「すごかったよ。ね、また見に行こう」と、おなかの底に響く音や大人の真剣な表情などを思い起こすとともに、初めて見る幼児Aと感動を共有することができた。

それ以来、体育館から音が聞こえるたびに「五明太鼓や」と言い、行事等で演奏される際には、真剣に見入るようになる。



★異年齢交流に生かされるとともに、その場にいなかった幼児同士とも、場面共有が可能になり、楽しかったことを振り返ることや、気づき、関心の広がりにつながった。

撮影・視聴

事例 6 パリオリンピックを見てみよう

段ボールでボードを作って遊んでいる幼児を見て

教師「オリンピックの競技にあったね」

A児「オリンピック見たよ。知っとる」

B児「何、何」

教師「ちょっとみんなで、オリンピック見てみる？」

開会式の様子をみんなで視聴していると、踊りたくなり、それぞれがまねをして踊り始める。

視聴後

C児「楽しかったね」

教師「なんか、みんなで集まって踊ったら楽しそうだね」

D児「そうだ、運動会あるよね。みんなで考えてやろうや」

B児「やろうや」

A児「いいね」



★社会への関心をもち、世界的なイベントの盛大さを感じることができた。

★遠い場所でのイベントも友達と一緒にすぐに見られる。身近に感じたり、タイミングを逃さず取り入れたりできる。

撮影・視聴

事例 7 本物のおみこしを撮影して帰ろう

祭りの時期が近付き、園でもおみこしを作ろうと教師が伝える。

A児「近くにおみこしが飾ってあったよ」

教師「みんなで見に行こうか」

B児「ねえ、先生、タブレットで撮って！」

教師「いいね」

C児「ここ、模様が細かいんよ。アップで撮っておいて」

教師「了解！ 帰ってよく見てみようね」



★幼児が発見した部分を意識して撮影したことで、製作に取り組む際に活用できた。また、事後の活動につなげるため、より記憶に残り、振り返りの際にも思い出すことができた。

★何度でも繰り返し簡単に見ることができたり細部まで拡大して確認したりすることができ、より本物に近づきたい思いを満たすことができる。

Bluetooth活用

事例 8 プレイリストをスピーカーにつなぐ

運動会で使用する曲のプレイリストを作成する。機器の接続もコードレスで行うことができ、コードを気にすることなく遠隔操作ができた。

※初めは戸惑ったりタイミングを外したりすることもあったが、慣れてくるとスムーズに操作できるようになった。



★CDを編集する手間がかからず、曲順の入替えなどの際煩雑な操作が簡単になり、教師の負担軽減につながった。

クロムキャスト活用 事例 9 第1回みこしづくり会議

大人社会をほうふつとさせる会議形態を模して、主体者感を高めていく。

教師「ただ今から、第1回みこしづくり会議を行います」

幼児たちは真剣な表情で席につき、思い思いに見て来たみこしの特徴を話す。

撮影してきた写真を投影すると、改めて思い出し、パーツの特徴を言葉にしたり作ろうとしているみこしに取り入れたい要素について意見を出したりする。



★大人が会議をしているような場の設定にし、幼児のワクワク感を誘い、より自分たちのこととして捉えられる。

その他の活用

事例10 小学校のお兄さん、お姉さんと語ろう

クラスに掲示しているA小学校5年生の顔写真を見ながら、幼児たちは「元気かな」「会いたいな」などの気持ちを伝えている。田植え以降、交流活動ができていなかったためTeamsで交流を行うことにする。

少し緊張気味で静かに座っていたが、小学生が「こんにちは」と手を振ってくれど、笑顔で手を振り返す。

小学校担任「これから、みんなのお名前を呼んでいくね。元気にお返事してね」

小学生「A児さん」

A児 担任の顔を見ながら恥ずかしそうに「はい」と返事をして、手を上げる。

小学生「B児さん」

B児 「はい」と元気に返事をする。

呼ばれる友達や画面の小学生を見ながら、自分の名前が呼ばれることを心待ちにしている。全員の名前が呼ばれたあと、互いに近況報告をし合う。

最後、幼児たちは「ありがとう」「また、会おうね」などと言いながら笑顔で元気に手を振って、別れる。



★移動に時間がかかり、距離的にすぐに会うことが難しい課題が解消できる。

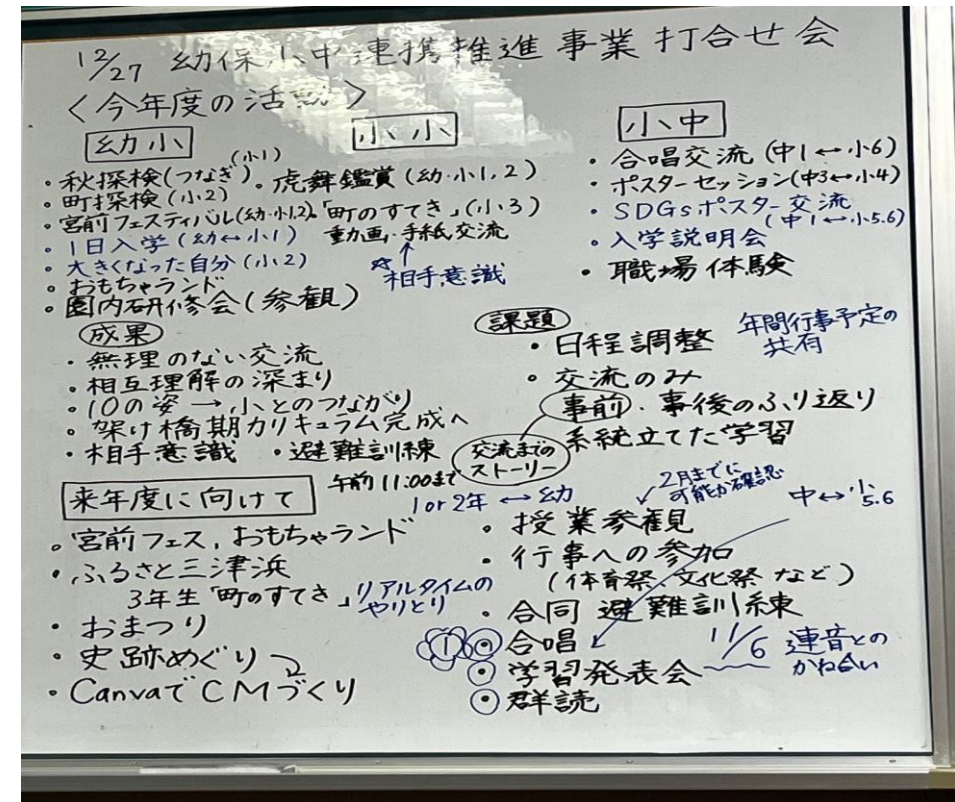
★画面を通して、やり取りすることや表情を見ることができ、身近に感じられる。

その他の活用

事例11 教師の動画研修活用

幼保小中連携推進研究の会議を行う。

年末の事務処理や出張で、日程調整がつかない職員がいたため、タブレットのTeamsを活用した。



★幼保小中連携にとって大きな課題である日程調整の難しさを解決する一つの方法となった。

その他の活用

事例12 給食の様子を伝える

家庭では、麺とふりかけご飯しか食べないという3歳児。給食は毎日完食するようになったことを伝えてきたが、保護者はイメージできない様子であった。そこで、「食べ始め～途中～食べ終わる」までの様子を動画撮影し、降園時に見せたところ、「本当に食べよる」と驚き、家庭でも本児が食べる方法を試してみようとする姿勢が見られるようになった。



★保護者に実際の様子を動画を見ていただくことで、幼児の変容や成長の様子を共有しやすく、保護者の安心にもつながる。

★一緒に動画を見ながら話すことで、保護者が家庭での具体的な関わりをイメージでき、連携しやすくなる。

これまでのまとめ

【タブレット使用による成果】

○幼児にとって

★ 幼児の生活を豊かにすることができた

- ・ ICT機能そのものを使って遊ぶ中で心を動かし、主体的に遊びを創り出す
- ・ 幼児自身が写真や動画の撮影をし表現活動に取り入れる
- ・ 初めての活動に動画視聴で得た知識を生かす
- ・ 一部の幼児が体験できなかった出来事を共有する
- ・ 知的好奇心を満たし、さらに他児へ伝えたい気持ちを募らせる
- ・ 情報リテラシーの力を育む機会となる

○教師にとって

★ 幼保小連携の推進を助けるツールとなった

- ・ 時間的な課題解決の一助となる利活用
- ・ 小学校以降の一人一台端末の生活を模した活動体験による段差のスムーズな
テップ化
- ・ オンライン研修や会議への活用による負担軽減となる
- ・ 教材としての便利なWebツールの活用ができる

★ その他

- ・ 教育内容について保護者と教師、教師間等での共有ができる

これまでのまとめ

【課題や今後想定している活用の方法】

- ★ 積極的なICT活用と直接体験を保障することとのバランス
- ★ グループでの共有や遊びへの活用
 - ・ 教師の意識改革～意識して取り入れようとする気持ちやスキルアップ～
 - ・ アプリのダウンロードや保育前の環境整備等、すぐに扱えるための環境整備
 - ・ タブレットの性能に応じ、スピーカーをBluetoothでつなぐことによる効果増への期待
- ★ 園務の負担軽減や合理化・用紙削減等SDGsの取組みへの活用
 - ・ タブレットを活用した保護者アンケートの実施
 - ・ ポートフォリオとしての場面共有や研修での活用